

# ひがしそのぎ

HIGASHISONOGI

平成23年

9 SEPTEMBER  
NO.528



わーい、東彼杵町の夏休み

～東彼杵町疎開プロジェクト～  
河川公園やすらぎの里で涼を楽しみました。



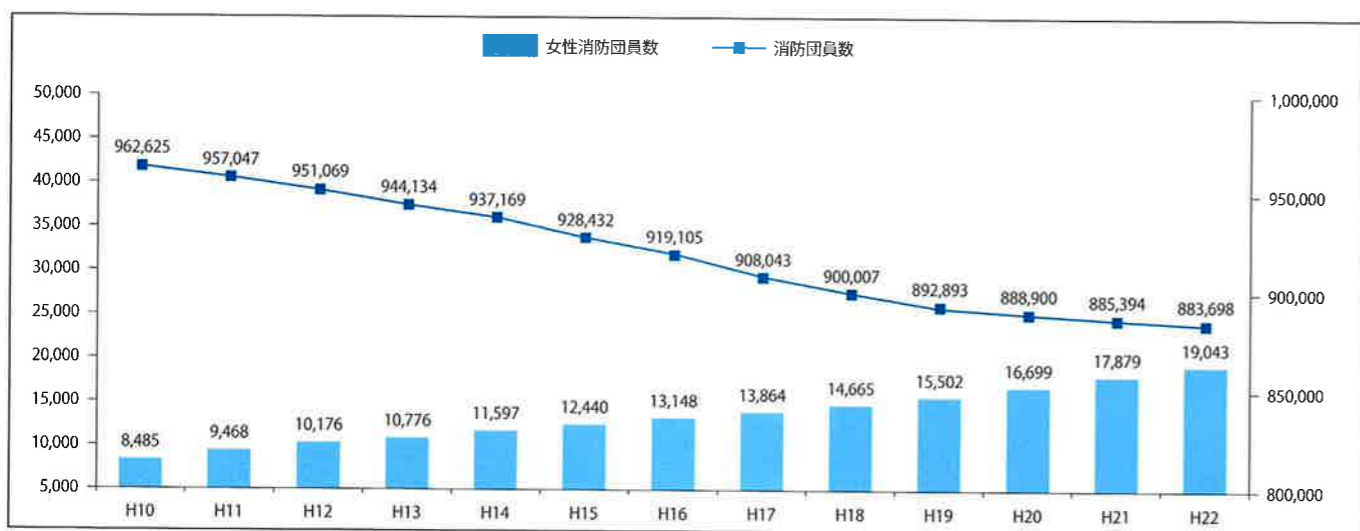
# 女性消防団員活躍中！！



消防団は、市町村の消防機関の一つです。消防団員は、本業を持ちながら、地域の安全・安心の確保のために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

消防団員が減少する一方で、女性消防団員数は全国において年々増加しています。平成22年4月1日現在、19,043人、女性消防団員を採用する消防団は1,196団で全都道府県に及んでいます。

女性消防団員は、地域の実情に応じて、消防団本部付けの採用とされたり、各地域を管轄する分団に所属したり、女性のみで組織する分団に所属したり、活躍の形態はさまざまです。



【消防庁ホームページ参照】

現在、東彼杵町消防団員は372名、消防団本部や各分団に所属しています。

災害時には、消火活動や救助・救出活動、住民の避難誘導などを行い、平常時は、訓練や特別警戒などを行っています。

そのような中、平成20年4月から発足した女性消防団。現在、女性消防団員は4名、消防団本部に所属し、地域のために活躍中です。



▲救命救急講習会



▲着衣泳講習会



▲夏季総合教育訓練（サポート）

## ♪女性消防団員の声♪

- ①消防団員になったきっかけ ②活動してきたの感想  
③悩みや不安など ④今後の目標



さとう ふみこ  
佐藤 文子さん  
(駄地)

①以前、大村市の女性消防団に入団していたこともあり、前団長から話があった時に“こんな私で役に立つのであれば”と思い入団しました。

②今、各地で災害などのニュースが絶えませんが、救命の普及活動などを通じ、少しでも自分たちができることを地域の方々と一緒に勉強していきたいです。大きなことをすることが目的ではなく、まずは「自分の家族は自分たちで守る」ことを伝えていきたいです。

③とにかく今は、女性消防団員が増えないことが悩みです。現在千綿地区4人ですが、彼杵地区の方も入団してもらいたいです。

④今まで以上に消防団員普及活動を行い、消防団のやりがいや楽しさを伝えていきたいです。



ふくだ くみこ  
福田 久実子さん  
(平似田)

①地域貢献を何かしたいと思っていた時、父から「女性消防団ができるよ」と話を聞き、もしかしたら私でも地域の人に役に立てることがあるかもしれないと思い入団しました。

②消防署員の方たちと一緒に地域をまわり救命講習会を行うことで、命の大切さ、私たちでも救うことができる命があるということを改めて実感させてもらいました。そのことを地域の方々に知らせられる立場にいられることをとても誇りに思います。

③頼れる仲間がいて、いろいろな活動ができて不安や悩みはありませんが、この先、団員が入団してくれるか心配です。

④まだまだ知名度の低い女性消防団をもっと知ってもらい、地域の方々に頼ってもらえるように頑張っていきたいと思います。



たらの まさき  
多良尾 麻樹さん  
(平似田)

①広報紙で女性消防団のことを知り、知り合いが入団していたのもあり、自ら志願して入団しました。

②消防署員さんに引率されて地域へ救命講習会を行って来て、住民の方々と交流することができました。地域の皆さんと交流が持てて嬉しいです。

③PRはしているのですが、なかなか女性消防団への入団がないので 将来どうなるのか不安です。無理なく楽しく活動しているので、興味のある方はぜひ連絡をしてください。

④地域の方々に「女性消防団員がいてくれてよかった」と安心感を与えられるような存在になれたらと思います。これから少しずつですが、活動の場を広げていきたいと思っています。



やまぐち けいこ  
山口 恵子さん  
(八反田)

①前団長からの勧誘で、全国に女性消防団があることを知り、私にも何か地域に貢献できることがあればと思い入団しました。

②昔から消防団＝男性＝火消しの印象が強いので、手探りの中で自分たちのできることを水面下で頑張っています。

③女性消防団員の人数が少ないのが悩みで、この先多くの女性消防団員が増えることを期待しています。

④応急手当普及員は取得しましたが、指導員を取得しないと住民の皆さんに教えられるので、取得した際は、講習会に参加してもらって、自分にも救える命があるということと一緒に勉強できればと思います。



## 「女性消防団」に想うこと



東彼杵町消防団  
くちき しゅんじ  
口 木 俊 二 団長

近年、男性の消防団員数が激減しております。昭和30年ごろには全国で200万人いた団員が今では90万人を割り込んでいます。

そこで、東彼杵町では川棚町・波佐見町に先駆け、女性消防団を4年前に採用しました。(現在3ヶ町とも入団済み)

「男性にはない女性にしかできない心の行き届いた活動ができるのではないか」と思ったのが採用するきっかけの一つだったと思います。

活動の内容として、毎月の定例会、救命指導員の資格取得、夏季教育訓練の司会進行、出初式での進行、また今後は、独居老人宅への訪問なども考えているようです。このように我々にもまねできない活動を忙しい合間をぬって行っています。

「地域の災害は自分たちで守る」というのが消防団の使命です。女性消防団も今は後方支援で頑張っていますが、団員がもう少し増えてくれたら、現在男性団員が行っている放水訓練、ホース延長訓練なども徐々にやってくれらると思っております。我々も女性団員が活動しやすい環境整備と、入団してよかったと言われるような消防団活動をしていきたいと思っております。これからも女性の感性を生かした活動を期待しています。

## 女性消防団員募集中！！

詳しくは 役場 総務課まで  
☎ 46-1111 (内線 15)

消防団員の退職、新入団員の確保の難しさから消防団員数が減少していること、また本業を持ちながらの訓練、機械整備などを行うことから団員の出席率が低下していることなど、さまざまな問題に直面しています。

そのような中、女性消防団員の存在は、団員数の増加というだけでなく、今後の消防団活動にたくさん良い影響をもたらしてくれそうです。

女性消防団員のさらなる活躍を期待しています。

## 「普通救命講習」のお知らせ

1. 実施日 平成23年9月25日(日)9時から12時までの3時間
2. 実施場所 佐世保市平瀬町9番地2 佐世保市消防局 3階 防災学習室
3. 内 容 (1)心肺蘇生法及び止血法の指導  
(2)異物除去法の指導  
(3)自動体外式除細動器(AED)の取り扱いについて指導  
(4)その他の応急手当法の指導
4. 受付期間 平成23年9月16日から9月24日  
※定員30名(定員になり次第締め切ります。)  
電話又はFAXで下記の担当署へ申し込みください。  
今回の担当署:佐世保市東消防署 電話 0956-38-2519  
FAX 0956-38-1119
5. 特記事項 受講対象者;中学生以上の方  
受講者全員にテキストを配布し、終了証を交付します。(受講料は無料)
6. その他 佐世保市消防局ホームページに掲載します。

## わ～い 東彼杵町の夏休み！！

### (東彼杵町「疎開」プロジェクト)

平成23年3月11日の東日本大震災による福島原発事故での放射能汚染区域“ポットスポット”に居住する方々が、放射能の被害を心配されています。

そこで、放射能の被害を懸念される子どもがいる家庭向けに、夏休みの期間一時的に東彼杵町に疎開し生活していただくというプロジェクトを行いました。

参加されたのは関東地方から18家族延べ59名、ボランティアとして協力してくれた方が16名、期間中の滞在先に東彼杵町農村環境改善センター(駄地)を提供。疎開された方々は、センターの和室や会議室に畳を敷き、自由に過ごされていました。滞在中は、町内バスツアーを行ったり、千綿中学校の平和学習に参加したり、納涼花火大会に出掛けたりと東彼杵町の夏を過ごされました。

9月からは2家族8名が中岳地区に住まれることになり、3名の児童が千綿小学校に通われています。

日本茶インストラクターの資格をもつ大山英子さんをおおやま えいこ  
を講師に迎え、「お茶の淹れ方セミナー」を行いました。  
そのぎ茶の美味しい淹れ方を学び、甘みのあるおいしいそのぎ茶を飲んで子どもたちも大満足でした。



『東彼杵の夏休み』の現状  
毎日にかかっている「マ」の  
実況は、一通りアップしてはいるが、楽しみやワクワク感がない。

あー、今更ですが自己紹介。  
というの、こちらに初めて来るお母さんによって変わるの、お母さんは管理人や福祉に  
関心がある人かと思ってしまう。

いよいよ、私も普通の参加メンバーの人、まっしぐらに活動の身です。

福島原発の爆発後、企業者でもある兄(スズキ)と友人(シマワウコウ)と一緒に  
差別に抗議、その流れで今回の疎開プロジェクト案が上がり、まあ、私が実行役として母代  
表をやらせていただいている訳でございます。

埼玉県吉川市出身、名前は偽装ありと申します(汗)☆  
さてさて、今回は参加メンバーのフコも入り、『ブログにはイベント的な楽しいことしか書  
いてないよー』と、確かに×2  
なので、今日はもう少し頑張らんと、私なりに見たこの『東彼杵の夏休み』の現状を報告し  
たいと思っております。

現在は15組45名の参加で今、1番MAX状態でキリ×2、部屋は満室、廊下にも子供が  
溢れかえっている状態で食費もいっぱい、空気がいいねー、あついで「ギョギョー」、こっちは  
『ビー』なのは日常茶飯事です。

お母さんたちは東彼杵町で  
の生活やさまざまな思いをブ  
ログに掲載されていました。



河川公園やすらぎの里では、都会にはない自然の雄大さに驚かされていました。関東地方では外遊びもできない所もあり、自然の中でみなさん大はしゃぎでした。マスコミも今回の取り組みに関心が高く、取材に訪れていました。

お母さんたちは東彼杵町での生活やさまざまな思いをブログに掲載されていました。

### お母さんたちの声

- 目に見えない放射能に悩んでいる母親がたくさんいます。「疎開しています！」と情報発信することも自分たちの役目だと思います。
- 関東地方からの集団疎開は珍しいことですが、町役場・地域の方々の協力もあり、人のつながりを大事に、支えられながら生活しています。
- 被ばく量を抑えるのに母親たちは気を付けていますが、「何で外で遊べないの？」という子どもたちに対して、親が子どもに言うこともストレス。東彼杵町では普通に水を使えることができるし、外でも遊ばせることができありがたいです。
- 放射能の問題は、説明・理解が必要ですが、子どもたちに何かあってからでは遅いので、子どもたちの健康を願いながら温かく見守ってほしいです。



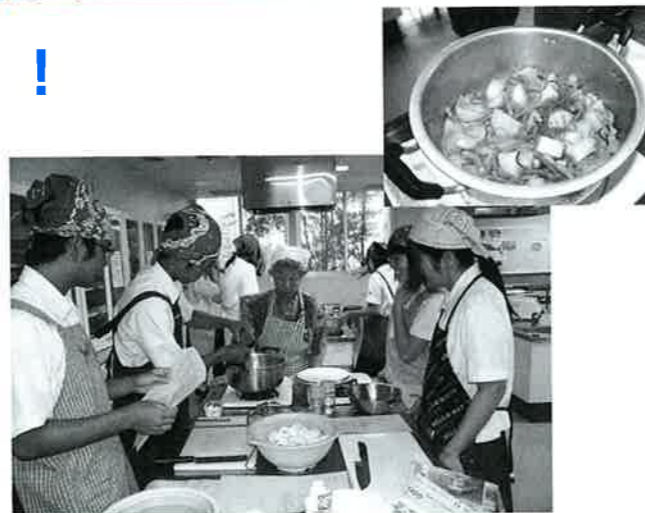


## 『鯨じゃが』を作ろう！！

町総合会館で8月10日、町食生活改善推進員の松井幸子さんらを講師に迎え、鯨を使った郷土料理「鯨じゃが」を作りました。

参加したのは、県下における家庭クラブ員の高校生18名。「鯨料理を食べたかった。」「料理方法を学びたかった。」といった理由で参加した高校生が多くいました。

日ごろ、鯨料理を食べることが少ない高校生たちからは、「おいしかった。」「家でも作りたい。」といった感想がたくさんありました。



## 夏の風物詩～納涼花火大会～



東彼杵商工会（東彼杵支所）主催による「第42回東彼杵町納涼花火大会」が8月16日、彼杵新港埋立地周辺で行われました。

花火大会当日は、小雨が降る空模様にもかかわらず、大勢の人で賑わいを見せました。

打ち上げ花火など夜空に輝く花火に、大きな歓声があがり観客を魅了していました。

会場には、子どもたちも多く見られ、夏休みの素敵な思い出となり、早くも来年の納涼花火大会が待ち遠しくなったことでしょう。

## 九州新幹線千綿川橋りょう『安全祈願祭』

九州新幹線（西九州ルート）の千綿川橋りょう安全祈願祭が8月18日、八反田郷の工事現場近くで行われました。

トンネルが多い西九州ルートの武雄温泉駅～諫早駅間46kmで最初の橋りょう工事であり、長さ333mの工事計画です。

祈願祭には、町長や九州新幹線建設局長、工事関係者など約65人が出席し、工事期間中の安全を祈願しました。工事は平成26年3月までの工期となっています。



## 『着衣泳講習会』 命をつなぐ最終手段



着衣泳講習会が8月13日、千綿中学校プールで行われ、小学生や保護者などが参加しました。

水難事故は、魚釣りや水遊び中など服を着た状態で事故に遭う割合が多く、着衣泳とは万が一の事故のときの命をつなぐ最終手段です。夏のゆっくりした川で深みにはまったときには効果があります。

講習会では、服を着たままプールに入り、ペットボトルやランドセルを使って、背浮きができるような方法を学びました。

## 通常点検 第6分団優勝！！

東彼杵町消防団夏季総合教育訓練が8月21日、彼杵児童体育館で行われました。

町民を火災や災害から守るために活動している消防団が、日ごろの訓練の成果を披露しました。

訓練では、各分団ごとに通常点検や放水訓練など、きびきびとした動作で行われました。

その結果、通常点検は第6分団が優勝。放水訓練指揮者の部では、第4分団の吉野直樹さんが最優秀賞に輝きました。



## 東彼杵町戦没者追悼式



東彼杵町戦没者追悼式が8月15日、町総合会館でしめやかに執り行われ、戦没者の遺族や来賓など約180名が参列しました。

式典では、戦没者518柱の冥福を祈るとともに、平和への誓いを新たにしました。

千綿中学校3年生の松本和典君・原田未来さんが「戦争について知らないことは恐ろしいこと。平和であることを当たり前と思うのではなく日々の生活に感謝の気持ちを忘れず前向きに進んでいきます。」と平和の誓いを述べました。

